

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム くつろぎの家	評価実施年月日	平成20年5月8日
評価実施構成員氏名	笹原 久子 角田 光子 石田 生美 山岸 博美 澤崎 美智恵 阿部 寛子 小島 久美子		
記録者氏名	笹原 久子	記録年月日	平成20年5月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義について全職員で確認しており、地域交流等大切にしているがまだ理念の中に付け加えていない。</p>	○	<p>今までの理念を見直し地域密着型サービスとしての内容を、組み入れて職員と共に作り変えて行きたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>見やすいところに理念を掲げ、日々の暮らしの中その人らしく安心した生活が出来るよう理念に基付いたケアサービスを実践している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>町内会に加入し町内行事に参加し認知症への理解を深めている。また、利用者様の力に応じて地域のコミュニティ講座に参加し、支援して頂きながら地域に溶け込むよう努力している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩、買物時等近隣の方々と挨拶を交わしたり行事(パークゴルフ)後ホームを寄って頂き地域の方との交流に努めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し町内行事(温泉旅行、パークゴルフ)等参加したり保育所での運動会、学習発表会等利用者と共に参加し地域、子供達と触れ合う機会を大切にしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>利用者の力に応じて地域のコミュニティ講座(しめ縄作り、お雛様作り)に参加したり、裁縫の得意な方に雑巾縫いをして頂き保育所に寄付している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価の内容を全職員に目を通してもらい取り組んでいる、外部評価の結果についてこれからのケア向上に活かしていく。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回活動やサービス状況を報告し、意見、要望を受け今後のサービス向上に向け取り組んでいる、自己評価の内容、外部評価の結果は会議にて公表している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市役所の指導や監査を受け適切なアドバイスを頂きケアの向上に努めている。入居や退居の情報や現状について連絡を取り合っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を必要とする入居者が居ないこともあり学ぶ機会がなかった。</p>	○	今後研修等に参加し理解を深めたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止の勉強会に参加し虐待について学ぶ機会を持っている、常に職員が利用者の尊厳を守るよう努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に契約書を元に重要事項を説明し同意を得ている、ご家族の不安のない様グループホームでの生活を説明し理解して頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の生活の中で1人1人の思いや希望を聞く機会を常に持ち、申し送りや会議などで話し合い全職員が共有出来る様勤めている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月のお便りに行事等の写真を載せてお届けしている。心身の状況変化が見られた際は直ぐに報告している。預かり金の内訳表は3か月に1回お届けしている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の来訪時にその都度様子を報告し、家族からの意見を求めるよう努めている。運営推進会議等にも、ご家族からの意見を大切にしている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のスタッフ会議時、全職員の意見、提案を聞く機会を設け運営に反映している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状態やペースに合わせ出来る限り柔軟な対応が取れる様なローテーションを組んでいる。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者様やご家族と馴染みの関係が継続していける様に努めている。異動、離職の際は利用者様に理解してもらおう様、一人一人に説明し、新しい職員とのふれあう機会を多くしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内外研修に出来るだけ参加し、他の職員に伝え良いケアに活かしていけるよう努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの勉強会に参加し、他の活動、状況報告を聞く機会を持ちサービスの質の向上に活かしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	連続した勤務にならない様なシフト作りを心がけている。また、休憩時間利用者様から離れる居場所をカーテンで仕切り設けている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	人事考課、自己評価が実施されており、資格取得後、資格手当が支給されている。また資格を取得する為の支援もしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、ご本人と面会を行ない、生活状況や本人の思いを受け止め、寄り添い安心して頂けるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、施設を見学して頂き、ご家族から利用に至るまで困っている事、不安な事、思い等、お聞きし理解するよう全職員で受け止める努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人や家族の思いなど伺い、状況を確認し必要な支援を見極め必要に応じて他のサービス期間に繋げる対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の生活を出来るだけ取り入れ馴染みの物を持ち込み、ご本人が安心して生活できるよう努めている。ご家族との連携を密にし、他の利用者 職員とのコミュニケーションを多く取るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の出来る事を着目し、職員といっしょに行ない、また教えて頂き、生き生きと生活して頂くようにしている。共に悩み、考え、笑顔をいつも見られるよう努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお便り、面会時、電話等で日々の様子を報告し、ご本人の思いなど伝え、ご家族と共に考え相談できる関係はできていると思う。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人のお誕生会に気持ちよく出席して頂きいっしょに過ごす機会を持ち、お盆、お正月には外泊されご家族との過ごす時間を持って頂いている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の入居前に行った温泉、以前していたパークゴルフ、お買物等に行ったり、親戚、知人が気軽に来訪して頂けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様一人ひとりの個性を把握し利用者同士の関わり合い、相性等考慮したり、居場所を確保して、調整し支援している。	○	馴染めない方の居場所の配慮をしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	体調を崩され入院となり退所後も時々お見舞いに行ったり家族のサポートをし、終末まで関わりをもっていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者ご本人や家族関係者から伺う様にしている。日々の生活の中でご本人の思い等を聞いたり、また家族からの話で思いや意向を把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や家族関係者から利用時や利用後に伺う。また家族訪問をして生活環境やサービスの利用経過の把握に努めている。	○	利用時に馴染みの暮らし方を把握し、生活様式を変えない様にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活習慣や精神状況を把握する様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れている。スタッフ会議で利用者一人ひとりの情報交換をして作成している。作成後、家族の確認を求めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月スタッフ会議、モニタリングによって状況変化に応じて見直しをして、介護計画に活かしている。		毎月のモニタリングによって、状況変化の場合はその都度見直し、計画を作成する。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様の状態の変化や職員の気づきなどを個々の情報ノートに記入し、申し送り時話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所の多機能性を活かした支援は実施されていない。	○	各分野との連携を取り多様なサービスで支援できるよう努力していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご本人の力量に応じて町内会の行事への参加、地域の講座などに参加し、地域に少しでも出る機会を見つけ協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現段階で他のサービスを利用するための支援はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加して下さり、地域の情報や支援に関する情報を協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>利用者のかかりつけの病院に通院している。母体施設の看護師に毎朝、状態の報告と相談をし健康管理に努めている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医に通院し、日々の生活や状態の変化を報告し相談しながら支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員は確保できていないが、母体施設の看護師に相談しながら日常の健康管理をする事ができている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>医療機関と相談しながら、ご本人・家族の意向に沿った対応をしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>家族、かかりつけ医師、職員で話し合い、ケア対応の方針を共有していきたいと思っている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>その人らしく暮らせるように職員で話し合い、家族・かかりつけ医師の協力を得ながら対応している。</p>		<p>日々の変化や体調などを家族に連絡をとりながら、希望に沿った支援を行なっていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>当グループホームでは他の事業所に移られたことはないが、今後そのような事がある時は十分な情報交換を行なうよう努めていきたい。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりに合わせて混乱や被害妄想などがみられた時には傾聴する姿勢で対応し、プライバシーを侵害しないような関わり方をしている。記録等は所定の場所で保管している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様の力量に応じて決定できるように対応していきたい。入浴や散歩などへの参加の声掛けを行ない、決められるようにしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせて暮らして頂いている。利用者様が家事をされていたので一緒に行かないながら過ごすこともある。どのようにしたいかいつもお聞きしてから支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身支度を一人で出来ない時には支援している。訪問美容を利用されているが、家族と希望の店に行かれる方もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の仕度は出来る方にお手伝いをお願いすることがある。盛り付け等の準備や下膳は皆さんでされている。食器洗いは一緒に行なう方もいる。</p>		<p>毎月、食べたいものを聞きながらメニューを決めて、一緒につくり一緒に食べる事で会話も増えて食事を楽しんでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ビールを飲まれる利用者様には提供している。居室に冷蔵庫を置かれている方も居る。好みのおやつはお預かりして、おやつ時等に召し上がって頂いている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握しトイレで排泄されている。プライバシーに配慮し、個々に合った支援を行ないさりげない観察をして、汚染時には交換できるようにしている。		水分をすすめたりして気持ちよく排泄出来る様に援助している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望を聞いて入浴して頂いている。1人ひとりの好みの温度で提供している。一人で入浴される方には、さりげない声を掛けをして安全の確認をしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	毎日の体操や散歩や家事の参加をされ、生活のリズムが出来ているが、中々寝付けない方には夜勤者が一緒に過ごし、飲み物等を勧めて安心して休んで頂ける様に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	自分の出来る事を個々にして頂いている。家事参加を促し掃除や縫い物、食事の後かたづけ、茶碗あらい、洗濯干しやたたみ物をお手伝いして頂いている。		昔されていた書道や縫い物をして頂いている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	こちらでお金を預かっているが、ご自分でお金を所持している方もいて出来るだけ買物に行った際に使えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者様の1人ひとりのその日の希望、気分に配慮して、買物や散歩、ドライブと気分転換できるように外に出る機会を多くしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常生活の会話の中でご本人が行きたい所に外出行事を決めるよう心がけている。温泉の希望のある方には、家族と出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族の面会が常にあり、自ら電話を掛けたいとの訴えは少ないが、お手紙のやり取りはご家族を通して出して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間等などは定めておらず、いつも気軽に訪れていただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束している方はいなく、全職員がよく理解されている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員が見守りする事で、日中鍵を掛けないケアを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員が1人ひとりプライバシーに配慮しながら様子を把握している。夜間はこまめに巡回し安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の状況に合わせて危険と思われる物は、利用者様の納得された後に職員が預かる様にしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	1人ひとりの身体機能に配慮した支援をしている。申し送りやスタッフ会議時にも、事故防止のために改善をするよう話し合うようにしている。母体施設への連絡体制もできている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命の講座に参加し知識を得ている。緊急対応についてのマニュアルも作成しており理解出来ている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	母体施設、消防署、地域との協力が得られている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族の面会時、状態を報告し安全でその人らしい生活を過ごしてもらおう事を常に心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝の申し送り時1人ひとりの体調報告を行なっている。毎日バイタルチェックを行ない、入浴前にも再度行なう事もある。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録、処方箋をファイルし、処方に変更があった場合は常に全職員が内容を把握できるよう申し送りが出来ている。症状の変化時は医療機関の連携もとれている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床時の水分補給、散歩、体操などできるだけ身体を動かす事に気をつけている。排便の確認の表も作成し1人ひとりの状態に合わせ、医療機関に相談し下剤を服用している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの力に応じて職員が見守り必要に応じて一部介助している、義歯のある方は就寝前洗浄剤に付けて殺菌、消毒している、毎食後口腔ケアも出来ている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、食欲、水分チェックを行なっている、食欲のない時にはおやつで補給している。母体施設、栄養士よりカロリー計算もできておりバランスの良い献立で提供できている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	母体施設同様、感染予防対策マニュアルも整備され勉強会も行なっている。手洗い、うがい等予防に努めている。またご家族の同意を頂き全員インフルエンザの予防接種も受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、フキンは毎日清潔に心がけている。食材の鮮度を確認し無駄のないよう調理方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	環境を整備し、プランターや植木鉢に花を植え明るい雰囲気になるよう工夫している。近隣の人等に親しみを持って頂けるよう手作りの看板もかけてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾り物、利用者様の作品提示、外出時の写真等、穏やかに生活できるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを置き一人一人居心地の良い場所があり自由に座ってくつろげる居場所がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や身のまわり品の持ち込みで以前の生活の継続を大切にしている。馴染みの物がある事で安心した生活を送って頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	1日の中で9:00、11:00、16:00と3回換気を行ない温度、湿度チェックを2回行なっている。利用者様の状況に応じて湿度は60度を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>要所への手すり、浴槽、トイレの安全確保一人ひとりに合わせて低床型ベット、布団等、入居前と同じ生活にする事で安全に生活をして頂くよう工夫している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>1人ひとりの状態に合わせ不安や混乱を少なくする為(トイレ、居室の名札、カーテン)の工夫をしている。</p>	<p>○ 居室の解らないご利用者様にはさりげなく誘導している。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>プランターで利用者様と一緒に花を植えたり、野菜作りをして楽しみを共感している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ● ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ●たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>●大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>●ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ●家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 * 自由献立の日を作り、利用者様の食べたい物をお聞きして職員と共に作りご家族を招いてゆっくり食事をして頂いている。また年間を通して行事を決め19年度はお茶会としお茶をたてて頂いた。20年度は習字の日を作り毎月1回お題を決めず思い思いの言葉を書いてもらっている。